

## “Phenomenology of the stop: street-level bureaucracy and everyday citizenship of marginalized groups”

「公権力関与の現象学: ストリートレベルの官僚制及び周縁的集団の日常生活における市民権」

Muhammad Azfar Nisar

### Abstract

行政学における市民権の研究では、周縁的集団が公共空間へのアクセスを限定されていることは依然として研究が不足しているテーマである。本論文においては、パキスタンにおけるジェンダー上の少数派集団である *Khawja Sira* の日常生活における市民権に対して、ストリートレベルの取り締まりが有する影響を明らかにした。この調査では、周縁的集団が置かれている実態に対する研究の蓄積不足を解消するため、民族誌学に基づく研究手法を用いている。日常生活における市民権とは、ある政体の公的空間において存在し、視認され、移動するという全ての市民に認められた不可侵の権利として概念化される。本稿では、法律の選別的な実施、過度の監視及び道徳を理由とする取り締まりを通じて、現場の公務員は周縁的集団の市民権を奪うことに寄与しうる点に着目している。本稿において、部門間の流動性、日常的な空間、行政官と市民の交流を強調する理論的かつ実践的な含意も議論している。

### Points for practitioners

- ・ 選別的な法律の実施、過度の監視及び道徳を理由とする取り締まりを通じて、現場の公務員は周縁的社会集団の市民権を奪うことに寄与しうる。
- ・ LGBT の共同体を構成する集団のような周縁的社会集団は公的空間へのアクセスを不当に排除される傾向にある。
- ・ 各部局の現場の公務員は、ストリートレベルの公共サービスを改善するために、周縁的集団の持つ独特なアイデンティティと、その集団が求めるものについて、教育を受けるべきである。